

# 色彩に親しむ創作の試み -インテリア計画Ⅱ・平面構成-

永井 賢

第一工科大学 工学部 建築デザイン学科 (〒899-4332 鹿児島県霧島市国分中央 1-10-2)

## An Attempt at Creative Work to Engage with Color - Interior Planning II: Two-Dimensional Composition -

Satoshi Nagai

(1-10-2 Kokubu-chuo, Kirishima City, Kagoshima, Japan 899-4332)

**Abstract:** Creation of interior and spatial designs requires a broad range of expressive abilities, including form-making, color, and lighting. Focusing on color, the author conducted a creative exercise in two-dimensional composition aimed at fostering familiarity with color. This article describes the course.

**Keywords:** interior design, spatial design, color, composition

### 1. はじめに

第一工科大学工学部建築デザイン学科の2年生を対象とした「インテリア計画Ⅱ」は15回の授業で複数の演習を行う。そのうちの課題、「個人のための空間」は「魅力的なインテリアの用途・機能の創出」と、「施設とその空間の演出」を理解する演習である。この課題では履修学生（以降、学生）が自身のための空間として、魅力や居心地の良さを感じる空間イメージ、雰囲気創作を行う。使用者にとって魅力的な空間を創出するための重要な要素の1つとして、色彩の計画がある。空間の色彩を計画するためには色彩の性質や造形、照明の理解が必要となる。

色彩は空間の利用者にとっての魅力やその空間全体の印象に大きく影響する。このことから学生が色彩に興味を持ちながら、自身にとっての色彩の魅力について深く考える機会として、2025年度に、「個人のための空間」の課題に入る

前に色彩に親しむことを目的とした「平面構成」の課題を行った。

今後、この経験が学生自身にとって、魅力を感じる色や色彩の表現について理解を深めることにつながると考える。

本稿は、本課題の「平面構成」の概要を、これまでの授業、筆者の美術大学での創作経験とデザイン業務の経験をもとに説明する。

### 2. 色彩に親しむ「平面構成」

芸術領域のデザイン教育における「平面構成」の演習では、与えられたテーマのイメージを色彩と造形を用いて他者同士で共感させる技術を習得する。この技術を習得するためには、色彩理論の理解と共に、造形感覚を養う訓練の時間が必要となる。

建築領域の本課題も、与えられたテーマにそった「平面構成」に取り組むが、色彩を扱う最初の段階として、目標となる共感の度合いや完

成度、色彩理論の理解よりも、学生が色彩に親しめる創作内容と指導に重点を置いた。

### 3. 色彩に親しむための環境づくり

この課題では、味、香りといった目に見えないモノ、感じたコトを色彩と画面の構成を行い平面上に主観によって表現する。実物を観察して描写する行為とは異なり、目に見えないモノやその感じたコトを表現の対象としていることから安易に色、配色を決められない。このことで学生は色彩に対して深く考え、試行錯誤することができるのである。自身が感じたコトやイメージを独自の視点で自由に色彩を考えて、構成を創作することを指導した。例えば、味のイメージを表現するときに、いちごは赤色、レモンは黄色、といった誰でも行うことができる配色を行うのではなく、各学生が着目した果物の味や香りから得たイメージや感じたコトを、主観による色の選定や画面の構成であらわす。使う色は既成の概念にとらわれずに自由に選択する。イメージという実在しないモノを独自の表現で自由に描くことができるように、この課題では他者にイメージが伝わらなくても評価することとした。

### 4. 取り組みやすい色彩の表現方法

一般的に色彩を使った演習は、デザインの立案、支持体の準備、絵具の混色、塗り方の技術や色彩の理論が必要となる。本課題の目的は今後、色彩の表現を向上させるために、色彩に親しむことである。よって、描く技術の向上、「平面構成」の完成度を目的としていない。このことから、学生が取り組みやすいように、色鉛筆、色紙、PC等、道具は学生の自由とした。

評価の基準は自身で考え出した色彩とその画面の構成について自身の考え方、創作の過程で行った工夫などの説明ができることとした。また、試行錯誤や挑戦する姿勢も評価することとした。

### 5. 「平面構成」の課題条件

色彩に親しみ、色彩について学生が取り組みやすくなるように、課題の内容やその表現方法は学生の意見を取り入れ決定した。

#### 1) テーマ

食べ物や植物などの味や香りを学生が自由に選び、学生自身が感じた見えないモノ、感じたコトを色彩と画面の構成で表現する。興味によって2つ以上の感覚を合わせることや上記以外の別の感覚を選択してもよい。

#### 2) 提出内容

用紙はA4サイズ程度

#### 3) 表現方法と道具

学生がすでに使用できる色鉛筆、色紙など自由とした。

#### 4) 評価について

作品のイメージが他者に伝わらなくてもよい。作品の経緯やその構図について説明できること。また、課題に対する姿勢も評価対象とする。

### 6. 授業内容その1 食べ物の姿は描かない

仮に食べ物の味のイメージを表現するときに、食べ物の具体的な姿はなるべく描かずに、色彩と画面の構成で表現することを指導した。例えば、赤唐辛子の味や刺激を表現するために、赤唐辛子の姿を描くことで赤唐辛子の味や刺激を連想させるかもしれないが、本課題では、一般的な味のイメージではなく、学生自身が口にして味わった赤唐辛子の味や刺激のイメージの表現を、食べ物の姿を描かずに、色彩、画面の構成を使って表現するように指導した。

### 7. 授業内容その2 モノの個性を考える

モノの個性とその状態に着目するように指導を行った。仮に赤唐辛子の味や刺激をイメージにした時に、そのイメージを表現するための色として赤い色を安易に選定するかもしれない。赤唐辛子の見た目の赤い色からその味や刺激を

連想しやすい。しかし、新鮮なみずみずしい赤唐辛子、乾かした赤唐辛子、調理された赤唐辛子は、鮮度のある赤い色、乾燥した赤い色等、それぞれ異なる赤系の色、明るさ、あざやかさを持っている。同様に、赤唐辛子の状態や調理によってそれぞれ異なった味、刺激、香りといった個性がある。自身の考えた赤唐辛子はどんな個性を持っているのか、自身のイメージにふさわしい色はどんな赤い色か、表面に光沢がある赤い色かもしれない。赤以外の別の色の可能性も深く考えることを指導した。

### 8. 授業内容その3 画面の構成

イメージは色彩とともに画面の構成によっても表現できることを指導した。仮に、果物が多く入ったケーキを頬張った時に複雑な果実の味わいが広がる。その口にした瞬間の感覚を表現したいとき、例として、画面いっぱいに新鮮な果実の味を表現した色をちりばめ、さらに画面の奥行の表現や線や図形を取り入れることで、口にした瞬間のイメージを表現できることを説明した。

この段階でも、そのケーキの姿を描かなくとも色彩の選定と全体の画面の構成を同時に考えることで表現の幅が広がることを伝える。

### 9. おわりに

色彩に親しむことを目的とした「平面構成」の課題を学生はおおむね提出できた。学生は自身の作品に対する説明もできた。課題の条件と表現方法の理解について個人差はあるが、学生は自身が感じたイメージを素直に表現できた。

学生はコーヒー、チョコレートや炭酸水等を自由に選択した。学生はそれらから主観的にとらえた、苦味や複雑な味といった、自身が感じたイメージを色彩と画面の構成によって表現することができた。

多くの作品は、食べ物の具体的な姿をなるべく描かないという方法で表現できた。色に関しては、学生は選んだ食べ物から感じたコト、そ

の食べ物の個性について思考し、そのイメージの色を安易に選択せずに、複数の色を組み合わせる、色鉛筆の色を重ねる、または複数の色紙を使う等、それぞれに試行錯誤を行った。

取り組みやすい色彩の表現方法のために、色彩の道具を自由に選択した結果、表現方法、構図のとり方も自由な表現となった。学生は、個人差はあるが全体の構図においても線や図形を取り入れ、色彩と全体の構成の両方を考えることができた。

色彩に親しむ創作として、「平面構成」を行い、学生は見えないモノ、感じたコトの表現方法について試行錯誤を繰り返しながら、学生自身にとっての色彩の表現について考え、主観による色彩の創作を自由に行い、モノの個性や色の多さ、ヒトが色彩から感じるコトの多様さを再認識、または体験することができた。中には数枚提出した学生もいた。これらの過程から、「平面構成」は、学生にとって色彩に親しむ機会となったと考える。この経験が次の課題である「個人のための空間」において、使用者を自身とした、自身にとっての魅力的な空間のための色彩の創出につながる。

今後の筆者の課題は平面上での色彩や構成のデザイン案を空間に展開する方法をわかりやすく指導することである。